



未知の世界を市民共創で

福島市長 木幡 浩

明

けましておめでとうござい  
ます。市民の皆さまには、「今年こそは」の希望をもって新年をお迎えのことと存じます。

昨年は、福島市出身の大相撲 大波三兄弟の真つ向勝負の相撲やサッカー日本代表の果敢で諦めない戦いぶりが、私たちの心を奮い立たせてくれました。しかし、コロナ禍は4年目に入る今も出口が見通せない状況が続いています。スペインかぜを超える長期化の中、生活スタイルは一変しデジタル化はスピードアップ。結婚や出生数が大幅に減り人口減少も加速しています。

ウクライナ侵攻や不穏な動きが続く、気候危機などによる災害が多発する中、平和や経済・食料、災害への安全安心にも新たな対応が求められています。私たちは、未曾有の大災害からの復興という未知なる道を歩んできましたが、今また経験したことのない変化が多方面から押し寄せる未知なる世界に踏み入れているのです。

日々の生活や事業活動をしつかり守る一方、こういう状況だからこそ変化の先を見据え、人口減少対策や高齢者

にもやさしいデジタル化、脱炭素化を加速しなければなりません。

新年は「ウィズコロナ」のもと、感染防止を徹底しながら社会経済活動の拡大を図り、厳しい生活と地域経済の再生に努めてまいります。

昨年は、道の駅ふくしまや新まちなか広場がオープンし、多くの方々に利用いただいているほか、駅前再開発や（仮称）市民センターが目に見えて動き出しました。市内各地のまちづくりをさらに推進し、その効果を広く波及させてまいります。

また、移住定住を促進する一方、住み続けたいと思われる都市を目指し、災害や医療福祉への安全安心を高めるとともに、福島ならではの子育て支援・教育の充実、産業振興、女性が活躍できる環境づくりを進めます。

市民共創で、希望をもって未知なる世界に挑んでいきたいと思えます。市民の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

皆さまにとって健康で幸多き年となりますよう心よりお祈りいたします。

明

けましておめでとうござい  
ます。昨年市議会に対しまして格別なるご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスとの闘いの中、3度目の新年を迎えました。市民の皆さま、事業者の皆さまには、感染拡大へのご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

長期化するコロナ禍に加え、原油価格高騰や急激な円安による物価高騰により、市民生活、事業活動はさらなる困難に直面しております。この間、市議会といたしましても、緊急会議を開催するなどし、市の施策や取り組みに係る予算などを速やかに議決し、市民生活の支援を積極的に推し進めてまいりました。

このような中、昨年は、福島大笹生インターチェンジ周辺に整備を進めてきた「道の駅ふくしま」が開業しました。県内外からたくさんのお客さまにお越しいただき、新しい地域振興、交流の拠点となっておりますこと、大変うれしく思っております。

本年は、福島駅東口地区再開発事業や（仮称）市民センターの建設工事が本

格化してまいります。大型の施設整備が進み、福島市が活気にあふれ、市民生活が豊かになることを期待するものであります。

もとより、喫緊の課題は、新型コロナウイルスや物価高騰による経済対策であります。二元代表制の一翼を担う市議会といたしましても、引き続きこれらの諸課題の克服に積極的に取り組んでまいります。今年の干支、うさぎのように、コロナ禍や経済不安を跳び越えて、努力が実り、今年こそ、明るく輝かしい一年となることを祈念するものであります。

市議会といたしましては、人口減少、少子高齢化が進む中、住んでみたい、住み続けたいと思えるまちづくりの実現に精一杯取り組んでまいります。市民の声を市政にしっかりと届けるよう、市議会一丸となって取り組みを強化してまいりますので、本年もご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆さまにとって健康で幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



課題を克服し、明るく輝かしい年に

福島市議会議長 真田 広志